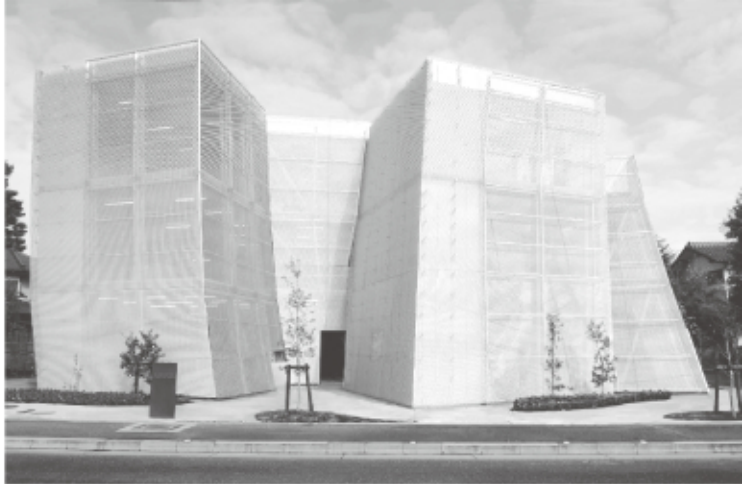




なかまちテラス

小平市立仲町公民館・仲町図書館

ロゴマーク（ラッピングバス、
小平駅前看板に使用）



小平市の 新しいシンボル 「なかまちテラス」

3/13 オープン! 《利用開始3/14》

この3月、青梅街道沿いに待望の「なかまちテラス」が開館します。仲町図書館の跡地に図書館と公民館の複合施設としてリニューアルされたものです。設計者が世界的な建築家、妹島和世さんということもあり、オープン前から注目されています。

妹島和世建築設計事務所 による斬新な建物

小平市では第3次長期総合計画により、老朽化した仲町図書館、仲町公民館を合築してリニューアルすることが決められていました。「人と情報の出会いの場」をコンセプトに、平成22年度、公募型プロポーザルで市のホームページから設計を公募したところ、35者が参加。審査の結果、妹島和世建築設計事務所が選定されたものです。

妹島さんは建築界のノーベル賞といわれる「プリツカー賞」を受賞し、世界的な評価を受ける建築家。金沢21世紀美術館、ルーブル美術館ランス別館など国内外に多数の建築物を手がけ、世界のコンペを制していました。妹島さんのご両親が小平に住んでいたことで、大学時代は花小金井

駅から通学していました。本誌でも8年前、インタビュー欄で登場願ひ、運河近くの当時の事務所まで、取材に行ったことがあります。その時、今後の夢を「学校を造りたい。地域の人々と子どもたちとがつながり合える空間を」と語っていました。それが学校でなくとも、子どもから大人まで集える公共の場「なかまちテラス」として、妹島さん所縁の小平で実現したので。

「仲町地域はかつて小平の役場がおかれた行政の拠点であり、最初の公民館・図書館ができた社会教育発祥の地でもありました。そのため単に区域の施設ということではなく、市のシンボリックな建物を目指しています」と話す中央図書館館長補佐の関さん。写真のように斬新な外観、近隣市では見かけないデザインです。地上3階、地下1階、延床面積1453.27㎡。外壁面はエキスパンドメタル（ステンレスやアルミ板に千鳥状に切れ目を入れ引伸ばして、網目状に加工した金属板）で覆われています。これは日射の負荷を減らし、また近隣への配慮のため。その内側はガラス張りで自然の光に満たされそうです。

建物内部もユニーク。1階と2階では離れて配置されている各部屋が、



市内を走るなかまちテラスラッピングバス「あっちこっちナカマッチ」のキャラクターをデザイン



あっちこっち ナカマッチ



小平駅前看板

2階では徐々に一体的となり、3階では大きなワンフロアとなる変化に富んだ造りです。建物のカーブに沿い、壁側書架も一部傾斜している所があり、日本中どこにもないような個性派図書館。1階と地下が主に公民館スペース、2、3階は主に図書館スペース。1階にはカフェラウンジもあります。図書館の本を館内の好きな場所で読むことができ、ICタグが貼っているため、自動貸出機で本を借りることが可能です。

「みんなでつくる」 新しい価値観

公募で決まった「なかまちテラス」の愛称。ハード面だけではなくソフト面（施設の中身）をどのようにしていくか。開館に向けて「なかまちテラスLINKSプロジェクト」を立ち上げ。市民と市職員が力を合わせて、「みんなで作る、みんなのなかまちテラス」を合言葉に、「なかまちテラスの未来づくりワークショップ」を昨年8月から10月にかけて実施。従来の公民館、図書館という垣根を取り払った、自由な発想、広い視点での理念づくり、活動の柱を7テーマの分科会、全体会を通して話

し合いを重ねました。地域コミュニティ（自治会、高齢クラブ、個人など）だけではなく、学校、産業界関係者、子育て世代などトータル120人以上が参加したそうです。

ここから生まれた事業案を活動の柱として体系的にまとめ、現在「なかまちテラス未来づくり実行委員会」として、PR、イベント、企画、施設などのチームごとに活動中。さてどんな企画が目見えするのか楽しみですが、開館からの記念行事に続き、5月にはなかまちテラスまつりが開催される予定。

「市民と職員、みんなで長い時間をかけて、施設の基盤となるものほどきたと思います。横のつながりを大切にしながら、新しい価値観をつくり、小平全体を『照らす』ことができるとなるとテラスにしていきたいと思います。活動の輪を大きくするために、ぜひ一緒に活動しませんか」と中央公民館の萩元直樹さん。

武蔵野美大生の奮闘

なかまちテラスのロゴマーク、看板、にじバスのラッピングデザインは市内にある、武蔵野美術大学の授業と連携して生まれたものです。昨年

暮れ、デザイン決定の最終段階を迎えた、視覚伝達デザイン学科3年生の授業を見学しました。

合わせた机の上に、出来上がったロゴ、看板、バスラッピングのデザインを並べ、9名の学生が細かい部分を微調整中。中央公民館から萩元さん、中央図書館から米谷さん、二人の若い職員も毎週参加して、学生たちと行動を共にしました。

ロゴは何百ものパターンをつくり、「若者男女が寄り添うイメージ」で創られたもの。なかまちテラスの文字は「横のつながりを意識して」、少しギザギザがある有機的な線は「誰でも来てくださいたいという温かみ」を表現したもの。表情がとつてもカワイイ。同館のシンボルマークとして人気が出るのでは？ と思います。

しかしここにとどり着くまでに、学内しか知らない学生にとって初体験の連続でした。なかまちテラスをアピールするために「1ヶ月かけて、行ける限りの公民館・図書館を訪ね、実地調査した」「公民館利用のサークル、住民を取材」「仲町の歴史を調べた」など学外へ飛び出し、実行委員会にも参加し、人と人とがつながるコミュニケーションデザインを探っていました。昨年11月には子どもからシニア世代まで延べ119人が参加し



「ななまちテラス」PRの重責を果たしたチームのみなさん（前列右端が齋藤教授、後列が市職員の高元さん（右）と米谷さん



ロゴの微妙なバランスを調整中の学生たち

て、キャラクターを作る「あっちこちナカマツチ」を企画。そこで生まれた愉快な名前のキャラクターたちが、小平駅前の看板、にじバスのラッピングデザイン、津田塾大学フェアトレード推進サークル「チカス・ウニダス」による「ななまちテラス版まちチョコ」に登場しています。

「学生だけではなく、市民の方々と一緒になって考え、それをチームのメンバーが共有し、意識しながら作りあげてきました。大きなプロジェクトだから、最初は不安もありましたが、信頼し合い、仕事ができるメンバーで楽しかった。活動を通して自分の糧になるものを得ることができた、濃密な期間でした」とリーダー役を務めた小出悠希さん。

指導にあたった同学科



津田塾大生による「ななまちテラス版まちチョコ」市内の鈴木園、まるやす商店、コーヒーハウスぼえむ、スズカメなどで販売中

の齋藤啓子教授は「市職員の2人が毎週参加してくれて、強力なカウンターパートナーになってくれました。地域の人々とのつながりの中で、学生たちが学んだことは、これから彼らが生きていく上で、大いに役に立つでしょう」と話してくださいました。

青梅街道筋の賑わいを取り戻したい

地元仲町の商店会からも期待が寄せられています。青梅街道を挟んで、ななまちテラス真向いの日本茶専門店「鈴木園」の鈴木さんは「昔は店の裏が役場で、警察署も図書館もあった、青梅街道は交通の要で、人が行き交う中心地でした。ななまちテラスは仲町だけではなく、市の核になるものとして魅力を発信し、人が集まる場に……と

の「こたプリン」などが参加予定。今後も同館と商業、農業とのコラボが実現しそうです。

妹島さんはメディアでよく「使いたくなる建築が理想」と話しています。新しい使い方を発見するのは人次第。建物の価値は今すぐにはではなく、次世代に評価されるものかもしれません。開館前から多くの人々をつないできたななまちテラスは、まさしくこれからも「みんなで作る、みんなのななまちテラス」として、市民が大切に思う施設になってほしいものです。

（小平市仲町1-4-5 小平駅南口徒歩10分）

◆開館記念 妹島和世講演会

3月13日（金） 18時〜20時

ルネこだいら（2/5に申込み締切済）

◆開館記念行事（他にもいろいろ）

▽絵本作家原園展

3月14日（土）〜4月2日（木）

▽絵本作家講演会

3月21日（土・祝） 14時から

▽アンサンブルコンサート

3月22日（日） 18時から

▽子ども科学講演会

3月28日（土） 14時から

*詳しくは今後の市ホームページで